OITA MEDICAL CENTER

大分

62号

平成30年新年

大分市横田2丁目11番地45号
独立行政法人 国立病院機構 大分医療センター
編集発行 広報誌編集委員会
大分医療センターホームページアドレス
http://nho-oita.jp/

基本理念

OITA MEDICAL CENTER

「愛の心・手」で
病める人々に寄りそう医療

基本方針

- 365日24時間断らない診療を目指します
- 大分県地域医療支援病院として、地域へ貢献します
- 大分県がん診療連携協力病院として、がん診療の充実に努めます
- 垣根を越えた連携によるチーム医療の充実に努めます
- 地域に根ざした積極的な広報活動と情報発信に努めます
- 安定した医療を提供するため、健全経営を志向します

目次

新年のご挨拶 …… 2
大規模災害の被災者受け入れ訓練に参加して …… 7
永年勤続表彰 …… 8
大分医療センター医師会合同臨床研究会を開催して …… 10
日本医療マネジメント学会 第16回 九州・山口連合大会に参加して …… 11
医療相互チェックを受けて …… 11
リレー・フォー・ライフ大分 2017に参加して …… 12
第9回 大分医療センター 健康フェア …… 14
第1回?大分医療センター 職場対抗ボウリング大会 開催 …… 15
合同送別会・忘年会に参加して …… 16
編集後記 …… 16

2018年 新年の挨拶

院　長
穴　井　秀　明

明けましておめでとうございます。謹んで新春のお慶びを申し上げます。本年もどうぞよろしくお願いいたします。

私も院長に就任して９ヶ月が経ちました。就任以来一番ショックだったのは昨年５月１日に東京の国立病院機構本部から副理事長と財務部長が直接当院へわざわざ来られ、入札寸前までいった外来棟建替工事の凍結を伝えられたことです。当院念願の外来棟建替でしたが、機構全体の経営状態の悪化から判断した苦渋の選択でした。新米院長でこの厳しい医療情勢の中、船は大揺れとなり船長自ら船酔いしてしまって、皆さんに大変ご苦労とご迷惑をおかけしました。しかし、地域包括ケア病棟という目的地にはどうにか、たどり着くことが出来ました。昨年９月から病棟再編成と地域包括ケア病棟の準備期間にはいり、在宅復帰率、看護必要度、リハ単位数などの主な条件をやっとクリアして12月から本格稼働する事ができました。皆様のご協力を心から感謝いたします。これからが勝負です。この病棟を効率的に運用して経営の安定化を目指さなければなりません。当然、包括ケア病棟の患者さんの自宅復帰への安心感や満足度も満たしていかなくてはなりません。

前述のように昨年12月から地域包括ケア病棟の運用が始まりました。それと同時に進めていました病院機能評価受審の準備もいよいよ切羽詰まってきました。今年１月中旬に受審前審査、３月に本審査受審予定です。第１領域から第４領域までありますが、特に今回は第２と第３領域の患者さんの外来受診から入院、退院というケアプロセスが重要視されています。多職種間での関わり方やカンファレンスが大事になります。当院でも普段からやっていることですが、それらの記録をしっかり残すように努めて下さい。

今年４月に診療報酬と介護報酬の同時改定が行われます。人口の多い団塊世代と言われています75歳以上の高齢者が急増し、社会保障費の急増も同時に予想される2025年問題が懸念されています。少子高齢化で、高齢者を支えるべき若者が減少して、その財源が確保できないことにより、社会保障費を抑制しようとしています。今回の同時改定では医師などの技術料にあたる本体部分は0.55%引き上げられ、一方、薬価・材料費は1.74%引き下げ、全体で1.19%のマイナス改定になりそうです。待遇の悪さから介護離職などの解消が難しい介護報酬は0.54%引き上げられることになりそうです。われわれを取り巻く状況は益々厳しくなっていきますが、こういう時こそ職員一丸となって同じ方向に向かって頑張らなくてはなりません。

なお一層のご協力をお願いいたします。

「平成」の年号もあと１年余りとなりました。次は一体どんな年号になるのでしょうか。日本は「平成」の字のごとく比較的平和が成り立っていた国だと思います。ところが国際情勢は、アメリカのトランプ大統領が就任以来、北朝鮮とのスーパーハイリスクな一触即発的な外交で明け暮れた気がします。物騒な昨年を代表する漢字一文字も「北」という漢字に選ばれました。また、アメリカファースト、都民ファースト、何々ファーストとファーストばかりでセカンド、サードはどうなるのでしょう。当然医療界では患者ファーストですが、患者さんを取り巻くセカンドの輪、サードの輪が我々医療スタッフではないでしょうか。

さて、今年は戌年（いぬどし）で、ワンダフルな年になってほしいものです。平成30年１月から基本理念も新しい内容に変えます。新たな気持ちで仕事に励んでいただきたいと思います。その新しい基本理念は“「愛の心・手」で病める人々に寄りそう医療”です。キーワードは「愛の心･手」、「病める人々」、「寄りそう」の３つのことばです。愛の心と手の間に「・」がありますが、この「・」には意味があります。「愛の心の手」、「愛の心と手」、「愛の心を手」などなど色々読み替えられます。病める人々の人々には「患者さん、その家族、医療職の人々」の意味があります。また寄りそうには「家族のように、親友のように、恋人のように、自分が大切にしている人のように」寄りそっていただきたいという気持ちが込められています。

それでは、皆様にとって、また病院にとっても、よりよい年でありますように祈念いたします。

新年のご挨拶

副院長
奈 須 伸 吉

大分医療センターに通院・入院されている患者さんと地域住民の皆さん、連携医療機関と大分医療センター職員の皆さん、あけましておめでとうございます。

当院は、2017年４月より穴井院長のもと新体制となり、私は副院長に任命されて９か月が経過しました。このわずかな期間に、本当に色々なことがありましたが、無事に新年を迎えることができました。これもひとえに、職員の皆さまの日頃のご努力の賜物です。

副院長の職務は、病院経営、医療安全、地域医療連携、諸会議の司会進行、院内外のトラブル調整等で、医療情報管理室長、院内感染対策室長も兼務しています。その中でも、当院が真に地域に根付いた病院となるように、医師会および連携医療機関や救急隊とはますます密接な連携が必要であると考えています。例えば、大分医療センター院内で開催している研究会の中には、大分東臨床懇話会と共に行っていた救急症例検討会がありますが、今回、事後検証医の先生方や消防署・救急隊と、穴井院長と中村統括診療部長らの協力でリニューアルされ、多数の方が参加し活性化してきました。今後も色々企画しますので、関係者の皆さまふるってご参加ください。

当院は、職員総数380名と少なく、ひとたび事あれば一致団結しやすいという特長があります。しかし、昨今、不確実で先の見えにくい暗い世相の中、当院も例に漏れず、職員は皆一生懸命頑張っているのに、病院経営は苦労している状況です。この様な状況で、もし皆さんの心の中に、漠然とした将来に対する不安感や不平不満が多ければ、**“「愛の心・手」で病める人々に寄りそう医療”**を素直に実践することができるのでしょうか。

そこで我々は、職員からの提案もあり、11月に***“大分医療センターもり上げ隊”***を結成しました。*“もり上げ隊！”*とは、患者さんのため、病院のため、そして職員のために、大分医療センターを元気にする、有志により作られた部隊です。来れる時に、来れる隊員が集まり、建設的で前向きに、ざっくばらんな意見交換をしています。批判や後ろ向き発言はタブーです。日頃、意見を言う機会が少ない若手の意見は特に大歓迎で、どんな意見にもしっかり耳を傾けて考えます。病院のあらゆることがテーマで、今後、良い意見をどうやって実行に移すかを検討し、院内の他のチームと協力して、大分医療センターを少しずつ良い方向に向けていこうと思います。11月、12月と２度、院内の“憩いの広場”に集まって意見交換をしました。堅苦しくない雰囲気で、色々な良い意見がどんどん出て、早くも大分医療センターに🔥もり上がりの火🔥が点火しました。職員一人ひとりが伸び伸びと能力を発揮でき、大きなパワーになる様に、風通しの良い環境を作ることが幹部職員の重要な役目であると思っていますし、今後、大分医療センターがどう変わっていくのか、自分自身ワクワクしながら見てゆきたいと思います。これからも皆さまを信頼し、知恵をお借りしてゆきますのでお願いいたします。

ところで今、世の中では働き方改革が始まっています。個人的には、働く事の本来の意味は、生活の糧でもありますが、一方で、一生懸命に働き脇目もふらずに目前の仕事に打ち込むことで、心が鍛錬されるのだと思っています。特に医療のプロフェッショナルには、世のため人のために奉仕する強い気持ちが大切なのでしょう。ただし一張一弛と言い、いつも気持ちを張り詰めるのではなく、ゆったりとした気分でいる時を作る緩急が大切で、その為には、やるべきことはすぐにやり、時間を上手に使う段取りが肝腎だと思います。

私自身も時々へこむことがあります。しかし、暗い時代だからこそ希望を持ち、利己的にならずに協調性を持ち、感謝の心を忘れず謙虚であるべきではありませんか。また、笑いには精神を緩和させる作用があるので、朝の元気な挨拶運動「笑顔でおはよう」は続けますのでよろしく。逆に、怒りは老化現象を加速させるそうなので、なるべく怒らない方が良いそうです。

…目立たぬように　はしゃがぬように　似合わぬことは無理をせず　人の心を見つめ続ける…不器用だけれど　しらけずに　純粋だけど野暮じゃなく…
…あれこれ仕事もあるくせに　自分のことは後にする…ねたまぬように　あせらぬように　飾った世界に流されず…時代遅れの男になりたい

～　河島英五「時代遅れ」より

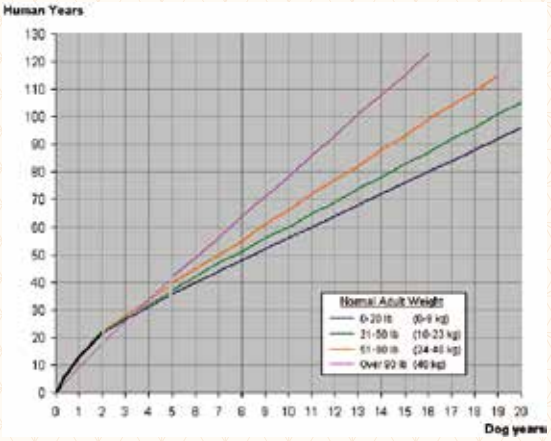
昨年12月から地域包括ケア病棟がスタートしました。新年からは、病院機能評価受審に向けての準備も本格化します。私は、今年で当院在籍21年目です。管理職の仕事に主体を置いていますが、専門の泌尿器科の診療や手術も継続し、今年も二刀流！！で踏ん張ります。皆さま、一緒に手を携えて、この困難な時代を乗り切ってゆきましょう。

未熟で不器用な副院長ですが、皆さまからご指導ご鞭撻を賜りながら、「愛の心・手」をこつこつ実践していこうと思いますので、本年も大分医療センターを何卒よろしくお願いいたします。

新年のご挨拶

統括診療部長
中　村　雄　介

みなさん、明けましておめでとうございます。昨年中は大変お世話になりました。今年もよろしくお願いいたします。今年は戌年（year of the dog）ですが、カタカナの「ドッグイヤー」の話です。IT に明るい方が思いつくのは、IT 業界の技術進化の早さの例えでしょう。犬の１年は人間の７年に相当するとされることに由来しています。ファッションに詳しい方は、クロコダイルのブランドで有名な「ドッグイヤーブルゾン」、鳥打ち帽の「ドッグイヤーキャップ」、読書好きな方では、しおりの代わりにページの端を折ること等を思いつかれるかもしれません。最近の試験では出題されないかもしれませんが、放射線科分野では「ドッグイヤーサイン」は有名です。近年では医療も IT 業界のように早い変化が要求されています。診療報酬の改定（地域包括ケアシステム）やグローバリゼーション（病院機能評価）などに追従できる体力があるかどうか、スピードがあるかどうかが試されていきます。地域に密着した顔の見える医療をめざしていきたいと思います。今年の干支、戌年にちなみワンダフルな１年にしたいものです。今年もご協力・ご支援をお願いいたします。



新年（新任）のご挨拶

事務部長
國　分　克　典

あけましておめでとうございます。

１月１日付、熊本再春荘病院より赴任して参りました、事務部長の國分と申します。

どうぞよろしくお願いいたします。

私は、昭和 57 年、大分医療センター（旧国立大分病院）に採用され、約９年間勤務し平成３年に昇任して、九州管内の 11 施設を回り 26 年ぶりの勤務となります。勤務していた当時と病院の建物及び周りの街の様子も大きく変わり戸惑っております。

さて、昨年大分県では７月に九州北部豪雨、９月には台風 18 号による記録的な大雨で県南部は甚大な被害に見まわれました。被災された皆様にお見舞い申し上げます。

当院では、５月に外来棟等建替改修整備が残念ながら凍結となりました。12 月から地域包括ケア病棟の運用を開始し、職員皆様のご協力により開設から約１ヶ月が経過しました。徐々にではありますが、経営状況が回復に向かうと思われます。

今年は病院の基本理念が“「愛の心・手」で病める人々に寄りそう医療”に変わり新たな出発となります。３月には病院機能評価受審、４月には診療報酬と介護報酬の改定が待ち構えております。診療報酬改定では、診療報酬本体はプラス 0.55％、薬価と医療材料でマイナス 1.41％、全体で約１％のマイナスとなる改定で経営としては厳しい状況となります。この厳しい状況の中、地域医療支援病院として地域医療へ貢献するためには、経営の安定が不可欠となります。そのためには、患者確保のため努力を継続することをはじめとして、12 月に開設した地域包括ケア病棟の運営を軌道に乗せ収益アップを実現しなければなりませんので、職員皆様のご協力をお願いいたします。

今年１年、基本方針にある「安定した医療を提供するため、健全経営を志向します」を目指して一歩一歩進んでいきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

最後になりますが、今年も職員皆様のご多幸を祈念いたします。

新年のご挨拶

看護部長
佐 保 美恵子

明けましておめでとうございます。

昨年は病院の理念である「病める人の立場に立ち、『愛の心・手』で、最良の医療を提供する」ことを目指し、病院内だけでなく在宅での生活も見据えたチーム医療に取組んでまいりました。また、Acty ナースがバージョンアップし、キャリアラダー制に移行しました。そのラダー制をもとに、闘病生活を強いられている患者さんやそのご家族の思いに寄りそい、人としてのサポートができるスタッフの育成をスタートさせました。社会人に求められる「チームで働く力」に必要な能力は修得できていると感じていますが、「考え抜く力」や「へこたれない力（柔軟性）」、「前に踏み出す力」等の能力の育成にはまだまだ課題を残しています。

５月以降は地域包括ケア病棟導入に向けて専門機能チームでその役割を発揮し、12月１日より地域包括ケア病棟が稼働し始めました。稼働にあたっては、定期的なコミュニケーションの場をもち、コンサルテーションを行い、専門機能チームのチーム力を高めてまいりました。「患者サービスの最良の方法は、力の結束だ」と言われているように、チームづくりの良し悪しが結果に結びつき、エビデンスとなり、実現へと導いたと思います。これからも多職種との関係性を大事に、前向きな気持ちで患者さんに寄りそうことのできる看護部でありたいと思います。

今年の干支は「戌」です。「戌」には、生命力豊かな意味が込められており、堅実かつ慎重な意味があります。今年の診療報酬・介護報酬の同時改定は、団塊の世代がすべて75歳以上となる2025年に向けて大きく舵を切ることができる最後の機会と言われています。そこで、引き続き多職種連携をキーワードに堅実な一年を過ごしていきたいと思います。

本年もどうぞ宜しくお願いいたします。

新年のごあいさつ

薬剤部長
吉 野 裕 統

あけましておめでとうございます。

本年もどうぞよろしくお願いします。

昨年４月に薬剤部に赴任しました。当院に赴任して目標の一つに、「薬剤師への教育カリキュラムの実践」を掲げました。

そもそも薬剤師という語源は、「薬品営業並薬品取扱規則（明治22年）」に遡ります。「医師」に対して「薬師」です。しかし、当時の役人の「薬師といえば薬師如来を思い浮かべる。」という一言で、それでは「薬剤師にしよう。」ということになり、それまで使われていた薬舗主という語が改められました。

ところで、このように明治時代に薬剤師という語が法制化され長い年月が経ちましたが、私が就職した国立病院時代からつい最近まで、薬剤師に関する生涯教育制度やカリキュラムと呼ばれるものがありませんでした。ほとんどの場合、自己学習でしたが、ここへ来てやっと２年程前に全国の薬事専門職が中心となって国立病院機構薬剤師の生涯にわたっての能力開発プログラム「NHO PAD」が示されるに至りました。基本能力開発プログラム（３コース）、管理能力開発プログラムの大きな２つの分野で構成されています。基本的には自己研鑽とされていますが、この流れに遅れては大変です。慌てずじっくりと数年がかりで軌道に乗せるスケジュールでとりかかることとしました。そこでまず、「馴染むことから始めるのがよし。」と思い、一つ一つの項目の解説から始めているところです。小さな項目に分けると300以上もありますが、一つの項目に対して表裏１枚（２ページ）の資料を作ることと決め、ついでに、日本や世界の著名な人々の名言を紹介するコーナーも設けました。毎朝数分間の説明が日課となりつつあります。

また、昨年から薬剤部の新しい取組みとして「病棟薬剤業務」を開始しました。これまでの薬剤管理指導業務と合わせて、薬剤が処方される前から処方された後まで薬剤全般に携わることを目指しています。

昨年は、世間では米国大統領の言動、北朝鮮のミサイル、中東の宗教問題などいろいろ話題が豊富でした。自分でどうにもならないことは気にしないのが一番です。失敗もたくさんありました。失敗の歴史は進歩の歴史。そんな中、朝ドラの「ひよっこ」はすべてハッピーエンドで気持ちよく見させていただきました。

今年も楽しいこと、充実、おいしいものをみんなで探せる一年にしていきたいと思います。

新年のご挨拶
（異動のご挨拶）

前事務部長
姉 川 俊 也

明けましておめでとうございます。

この度、正月早々の人事異動で大分医療センターを離れることとなりました。

平成27年４月に事務部長への昇任辞令を持って赴任した時に、室 前院長から「外来棟等の建替改修整備を何とか現実のものとしたい。」とお聞きしたことから勤務が始まりましたが、あっという間に２年と９ヶ月が経過しました。残念ながら外来棟等の整備計画については、平成27年度と平成28年度の２年連続マイナス収支という実績により、当然のことですが機構本部からは借入金を返す資金余力が見込めるまで凍結と言われています。

老朽化して悲鳴をあげている外来棟等を少しでも早くリニューアルオープンし、職員にとって働きやすく、そして患者さんにも喜んでいただける外来棟等を整備するためにも収益を上げる対策が必要となりますが、その一つの方策が昨年の12月１日に開設した地域包括ケア病棟の運営となっています。

この広報誌が皆さんの手に届く頃には、一月目の決算が終わっていると思います。私には「先見の明」はありませんが、現状のマイナス収支から脱却できる明るい兆しとなっていることを信じています。

穴井院長は「苦しい時だからこそ、職員が明るくなれるように」と夏期のビアガーデンでの暑気払いや秋のボウリング大会を自ら提案される一方では、地域包括ケア病棟の運営も考えられるなど、今後も増収に向けた新しい方針を発表されると思います。

これからも変化していかなければならない大分医療センターを発展させるためにも、我々職員個々にできることを何かプラスしてみてはいかがでしょうか。

近未来にはＡＩ（人工知能）の進歩により、人の手を借りずとも便利な生活が送れるようになると言われていますが、大分医療センターの基本理念にある『愛の心・手』という人間らしさを育てていくことも大切なような気がします。

最後になりますが、これまで幹部の皆様を始めとして職員の皆様には大変お世話になり感謝申し上げます。ありがとうございました。

大分医療センターが今後も地域医療に大きく貢献できる施設として発展されることを祈念いたします。

大規模災害の被災者受け入れ訓練に参加して

手術室　寺　川　孝　枝

９月８日（金）「大銀ドームにて天井の崩落事故が発生し多数の被災者が運ばれてくる」という設定で被災者受け入れ訓練が行われました。事前に学習会でSTRAT法トリアージを学び、当日は20名の模擬患者に扮した学生さんの協力で、当院に訪れた被災者にトリアージを行い、診療するという一連の手順を確認することができました。

年に２回の大規模防災訓練ですが、使用するエアーテントやトリアージタッグ、シートなどの災害用備品を確認すると、「いざ使う」となるとすぐに使用できないのでは…と思われるものもあり、「備えあれば憂いなし」という言葉が思い出され、大いに反省しました。

昨今、昨年の熊本地震をはじめ、九州北部豪雨や津久見市での大雨被害など大分県内でも災害が頻発しており甚大な被害にみまわれています。

大分医療センターは災害派遣医療チーム大分DMAT指定病院、災害時被災者受け入れの役割を担っています。大分医療センターの一員として、地域での災害時の役割が果たせるよう、いつ何時災害が起きても対応できる知識とスキルを身につけ、準備していくことが大切だと感じました。

（１年ぶりの）
防災エアーテント設置

一次トリアージ中

訓練終了後の反省会

永年勤続表彰

永年勤続表彰30年を受賞して

医療安全係長　安藤 万寿美

この度は永年勤続表彰を頂きありがとうございました。

京都の看護学校を卒業し小さい頃からの夢であった看護師となり、若い頃には看護師をやめたいと思った時期もありましたが、次第に看護の仕事に魅了されて自分自身を成長させてくれる環境にいる今は幸せな日々です。これも元気な身体に育ててくれた両親、気分転換を上手にしてくれる家族、友人、職場の皆様のおかげと感謝しております。

特に、医療安全管理係長の任命を受けてから多くの職員と関わる機会を得て、一人では何にもできず、同じ目標を持った人達で力を合わせることで、一つの事が成し遂げられた時には仕事の楽しさを実感します。時には、なんで！と怒りを爆発したい時もありますが…（笑）

これからも、いろんな方々の意見を聴き、何を大切に優先し実施するのが最良なのか考えて、大分医療センターの医療安全が少しでも前進できるよう努めたいと思います。今後ともよろしくお願いします。

永年勤続表彰30年を受賞して

HCU 病棟看護師　小笹 美幸

この度、永年30年勤続をいただきまして、誠にありがたく感謝するばかりです。

入職したときは国立大分病院の名称でした。肝センター（４病棟）へ配属、その後は外科、手術室、泌尿器科と経験させていただきました。

当初は、中央配膳、中央手術室ではなく、食事の盛りつけをしたり、手術室には間接介助のために入室したりしていました。経験のないことが多く戸惑う事ばかりでしたが、先輩の指導をいただき今日まで仕事を続けることが出来ました。今は後輩の方々に支えられて HCU 勤務をしています。残り少なくなった大分医療センターでの仕事を、事故なく病気することなく退職まで頑張りたいと思います。

永年勤続表彰20年を受賞して

教育担当看護師長　山本 真由美

この度は永年勤続表彰を頂き、誠にありがとうございます。国立療養所西別府病院に就職し、別府医療センター、大分医療センターと大分県内にある NHO の病院を制覇して参りました。大分医療センターは元々実家から近く、馴染みの病院でしたので、ここで働けることを大変光栄に感じています。20年間という長きに亘って働くことができたのは、多くの職員の皆様の御蔭と感謝申し上げます。今後も日々精進致しますので、よろしくお願いします。

永年勤続20年表彰を受賞して

地域医療連携係長　池ヶ谷　知美

この度、永年勤続20年表彰をいただき、ありがとうございました。

これまでに看護師、副看護師長、教員、看護師長を経験させていただき、転勤も何度か経験し、様々な環境の中で気づけば20年間も働くことができました。ここに私が立っていられるのは、患者、家族の方々、看護師をめざす学生達、一緒に働いてきた多くの方々が支えてくださったおかげだと感謝しています。微力ではありますが、がんばりますので、よろしくお願いいたします。

永年勤続表彰20年を受賞して

３階病棟看護師　江 口 久 美

この度は永年勤続20年表彰を頂き、ありがとうございます。
「20年です。」と言われて、もうそんなに･･･と思いました。
子供も一応ですがすっかり自立し、ふと老いさえ感じる程の年月を改めて感じました。
今回の表彰を受け、まだまだ頑張らないといけないと決意してしまいました。

永年勤続表彰20年を受賞して

３階病棟看護師　大 石 佐千恵

この度は永年勤続にて表彰して頂きありがとうございました。
新卒の頃からこの病院で働き多くの人たちと出会いました。
今までたくさんの先輩や上司の方々、そして同僚や後輩に恵まれ、ここまで働くことができたと思います。
決して一人の力ではたどり着くことができなかったでしょう。大変感謝しています。ありがとうございます。
今後も看護師として患者さんの立場にたった看護を提供できるように頑張っていきたいと思います。

永年勤続20年を受賞して

主任臨床検査技師　松 永　　洋

この度は永年勤続20年表彰を頂き有難うございます。
振り返ると色々なことが思い出されます。平成３年に専門学校を卒業して国立対馬病院に就職し、20代の大半を対馬で過ごしました。長崎医療センターでは病理検査という現在の業務に携わり諸先輩方の指導のもと細胞検査士認定資格を取得し、別府医療センターでは長崎医療センターに次いで２度目の病院建て替え・引っ越しを経験しました。また、沖縄愛楽園では初めてハンセン病施設での勤務を経験しました。今まで色々なことを経験できたのは自分にとっての大きな財産だと思っています。これから大分医療センターでも色々な経験を積み勤続30年を目標に頑張っていきたいと思います。

永年勤続表彰20年を受賞して

手術室看護師　福 田 由美子

この度は永年勤続表彰をいただきありがとうございます。
病棟から外来、手術室勤務を経て、振り返れば自分に看護師は向いてないと涙したり、仕事と家庭の両立に悩んだこともありました。それでもここまで続けてこれたのは、いろんな方との出会いに恵まれ、たくさんの方々に支えられてのことだと心より感謝しています。
また新たな気持ちで、日々成長できるよう頑張っていきたいと思います。これからもご指導宜しくお願い致します。

永年勤続表彰20年を受賞して

５階病棟看護師　春 野 美 保

平成８年４月に入職し、早いもので今回永年勤続表彰20年を受賞することができました。当時は今とは違い、指導のプリセプターNsも電子カルテもない時代であり、学校を卒業したばかりで分からないことだらけの私でしたが、多くの先生・先輩看護師の方が優しく丁寧に指導して下さったおかげで今の自分があると感じています。今後は、新しく入職される方達に少しでも何か返せる様、自己研鑽を積みながら勤務していきたいと思います。

永年勤続表彰20年を受賞して

入院係　釘 宮 美由紀

この度、勤続20年表彰を頂きありがとうございました。
平成９年に今は無き「国立中津病院」に採用になりました。当初は、いろいろな失敗をし、怒られ迷惑をかけてきましたが、上司や同僚の指導や励ましのもと、気がつけば20年が経っていました。本当に感謝の気持ちでいっぱいです。
20年経ちますが、係としては３つしか経験しておらずまだまだですが、これからもこの感謝の気持ちを忘れず、微力ながら頑張りたいと思います。

大分医療センター 医師会合同臨床研究会を開催して

地域医療連携係長
池ヶ谷 知 美

大分医療センターと地域医療機関が、密接な連携のもとに機能分担を図り、地域医療の向上・発展に寄与することを目的とした大分医療センター医師会合同臨床研究会を9月21日（木）トキハ会館において、開催いたしました。

合同臨床研究会に先立ちまして、大分医療センターオープンシステム運営協議会が行われ、今年度より、大分東医師会、大分郡市医師会に加え、新たに大分市医師会の先生方にも委員として参加していただきました。協議会委員の先生方より地域医療に関する要望や意見交換を行い、地域医療の向上・発展についての課題を見出す機会となりました。大分医療センター医師会合同臨床研究会では、オープンシステム登録医37名、救急隊員16名、当院職員65名の総勢118名と多くの方々に参加していただきました。講演会では、当院の臨床研究部長　椛島章医師より「消化器癌の手術療法（最近の動向）」をテーマに、人口の高齢化によって消化器癌の手術を受ける患者も高齢者が増え、全身状態に課題のある患者へ、根治性と低侵襲性を両立する治療が必要とされていること、そのため鏡視下手術を受ける患者が増えている現状について講演していただきました。続いて、大分市消防局警防課　藤本保様により「大分市消防局における救急の現状」をテーマに、大分市の救急搬送の現状や、救急業務、緊急度判定や、地域への普及啓発活動の実際などについて講演していただきました。会場からの質問なども多数あり、参加者の関心も高く、多くの知見や学びを得ることができ、医療現場の実際と、連携の重要性について改めて考える貴重な機会となりました。

終了後の懇親会では、病診連携でお世話になっている医師会の先生方や救急隊員の方々と、美味しい食事やお酒を共にしながら、楽しい会話ができました。その中から、地域医療連携の強化に繋げていくことができる貴重なご意見もいただくことができました。今後、大分医療センターと地域医療連携機関の方々との連携強化に繋がっていくことを期待しています。

平日のお忙しい中、ご参加いただきました医師会の先生方ならびに救急隊員の方々、ご講演いただきました椛島章臨床研究部長、大分市消防局　藤本保様に感謝いたします。また、開催にあたりまして、ご尽力いただきました職員の皆さまに深謝いたします。

日本医療マネジメント学会 第16回 九州・山口連合大会に参加して

医療社会事業専門員
椎 原 優 子

平成29年12月1日・2日に別府市の別府ビーコンプラザにて日本医療マネジメント学会が開催されました。私は初めての参加で医師や看護師、理学療法士など医療専門職のプレゼンを拝見させていただき、とても良い経験をさせていただきました。初日に退院支援部門で退院支援での本人家族への支援について発表させていただきました。医師や看護師とのチーム医療の実際について質問を受け、医師・病棟看護師・コメディカルとの情報共有の大切さを再確認しました。また、他の病院での退院支援の取り組みについて知るとても良い機会になりました。

臨床倫理のシンポジウムでは活発な意見交換がなされていました。他県より参加されていたソーシャルワーカーとも話をすることができて、とても良い経験になりました。これからも福祉専門職としてより一層勉強していきたいと思いました。

医療安全相互チェックを受けて

4階病棟 副看護師長
藤 原 ゆかり

9月29日、私たち4階病棟は小倉医療センターからの医療安全相互チェックを受けました。マニュアルの周知、環境整備、医師指示や記録内容の確認など、医療安全と感染の視点を中心に、病棟内の整理を行いました。普段決められたことを決められた通りにする、これをすべてのスタッフが日頃から行っていれば準備はいりません。しかし、その「当たり前のことを当たり前にすること」の習慣化がどれだけ難しいかを実感しました。院内にある数多くのマニュアルを網羅することの難しさ、周知することの難しさ、そして、感染面を考慮した物品や環境の整備、医療安全を考慮した医師の指示、記録内容など、普段できているつもりでそのままになっていたこと、行うべきことが確実に行えていなかったことが多くあるとわかりました。チェックを受けることで改善すべき点や、病棟にとっての課題が明確になり、また、私たちが大分医療センターの職員として「当たり前にすべきこと」を習慣化できることが大切だと感じました。相互チェックにおいては、機能評価の視点からアドバイスもいただきました。今回の相互チェックで得られた課題をもとに、機能評価に向けてさらに改善を重ね、患者さんに最良な医療の提供ができるように取り組んでいきたいと思います。

リレー・フォー・ライフ大分 2017 に参加して

緩和ケアチーム　廣　田　紘　子

11 月 3 日（金）～ 4 日（土）の 2 日間でリレー・フォー・ライフ大分 2017 が大分スポーツ公園大芝生広場にて開催されました。天候にも恵まれ、2 日間で延べ 6,800 人（うちサバイバーさん 158 人）の方が参加され、笑顔溢れる温かい大会となりました。当院は、職員延べ 162 人、患者さん・ご家族 6 人の方が参加くださいました。初めて参加してくださった患者さんからは、みなさんが歩いている姿をご覧になられて「こんなにたくさんの人が参加して歩いているんですね。力をもらいました。」と嬉しいお言葉をかけてくださいました。皆様の 1 歩 1 歩が患者さん、ご家族の力になっています。

また、チームテント企画では毎年恒例のがん川柳の展示・作品集の無料配布に加えて、ハンドメイドのアクセサリー販売を行いました。新たな企画を通して参加者と交流をさらに深めることができました。

今年もタスキが途絶えることなく無事にゴールできたのも、一重に職員皆様のご協力があったからこそです。当日は貴重な時間を割いてご参加いただき、本当にありがとうございました。来年は当院が RFL に初参加してから記念すべき 10 回目の参加となります。これからもこの大会が、日々病気と向き合う患者さん・ご家族の心の拠り所になれるよう、次年度に向け頑張っていきたいと思います。今後ともご理解、ご協力のほどよろしくお願い致します。

職員延べ162人が集結！

11/3　11:00～
開幕！

☆決意表明☆

スタート　11:00～

5階病棟　12:00～

1階病棟

13:00～

栄養管理室・ME室　14:00～

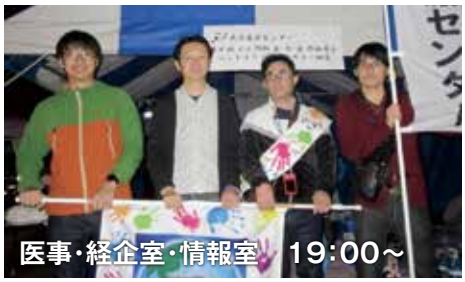
放射線科・検査科　15:00～

4階病棟　16:00～

2階病棟　17:00～

HCU病棟　17:00～

3階病棟　18:00～


医事・経企室・情報室　19:00～

手術室　20:00～

企画課・管理課　21:00～

薬剤部・リハビリ　22:00～

11/4　6:30

地域医療連携室・ホッとステーション　6:00～

検査科　7:00～

外来　8:00～

RFLキャラクター

ラスト・ラン　9:00～

無事終了！

今年も皆様の温かいご支援とご協力により、笑顔でタスキをつなぎゴールすることができました。ご参加いただき、ありがとうございました。
RFL 実行委員一同

おつかれさまでした!

第９回 大分医療センター 健康フェア

平成 29 年 9 月 23 日（土）トキハインダストリー明野アクロスにて健康フェアを開催しました。今年も 235 名（延べ 1,262 名）の来場者があり、多くの方に喜んでいただきました。

血管年齢測定コーナー

３階病棟　竹田副看護師長

昨年に続き日差しが強い中での開催となりましたが、沢山の来場者の方にきていただきました。「今年も楽しみにしていました」という嬉しいお言葉もいただくことができました。また、今年は初めての試みで血管年齢測定を行いましたが大変好評でした。今回３回目の参加で毎年沢山の来場者の方と関わることができ、私自身学びの多い経験となりました。

骨密度測定コーナー

渋谷診療放射線技師長

骨密度測定のコーナーは、フェア終了まで途切れることなく測定を続け、200 名以上の方に来場していただきました。検査にも結果説明にも大きな渋滞を作ることなく、順調に検査を終えることが出来ました。忙しくはありましたが、結果説明のわずかな言葉のやり取りの中の「ありがとう」や「またお願いしますね」の言葉に、温かい気持ちになり、「少し、皆さんの役に立てたかな」と思える、さわやかな余韻を残す秋の一日になりました。

筋力測定コーナー

リハビリテーション科　梶原理学療法士長

今回は筋力測定（握力･大腿四頭筋）を行いました。握力や大腿四頭筋筋力は体力や転倒の危険性の指標となるものです。フェアの開始から終了までほぼ切れ間なく、合計で 141 名の測定を行わせていただきました。性別・年代別の標準値を示しながら測定結果の説明を行いましたが、参加者の皆様は標準値とご自身の測定結果との比較についてかなり関心を持たれており、有意義な測定であったと思います。今後も継続したいと思います。

栄養相談コーナー

栄養管理室　下中園管理栄養士

社会人２年目となり、２回目の健康フェアに参加しました。昨年は、測定コーナーの結果を受けて相談に来られる方が多かった印象でしたが、今年は、自ら相談に来られる方も多かったように感じました。多くの方の相談に乗ることができ、私自身の勉強にもなりました。また、「去年も相談したよね。」と声を掛けてくださった方もいて、とても嬉しく思いました。ぜひ来年も参加したいです。

第１回？ 大分医療センター 職場対抗ボウリング大会 開催！

レクレーション委員会の
企画で当院では、数年ぶり？の
職場対抗のボウリング大会を
開催しました！

参加総数はナント **98**名！
22チームの大会となりました。
（レーンが足りずに参加できなかった方、
申し訳ございません）

優勝賞品は超豪華な…

優勝 リハ栄養チーム

準優勝 ５階病棟チーム

３位 放射線科チーム

開会のご挨拶

名誉院長・院長による始球式です

団体成績

順位	レーン	氏　名	チーム	スクラッチ平均	ハンデ平均
優勝	12	山　下　真由子	リハ２	107.75	**157.75**
	12	原　田　愛　子			
	12	有　働　舞　衣			
	12	藤　田　由巳子			
準優勝	5	赤　峰　雄　貴	５階１	114.63	**152.13**
	5	國　本　由　紀			
	5	筒　井　　恵			
	5	安　藤　美　佳			
３位	20	渋　谷　　充	放科２	136.13	**148.63**
	20	増　井　飛沙人			
	20	里　園　邦　仁			
	20	出　納　麻理菜			

個人成績

	順位	氏　名
男子	１位	梶　原　秀　明
	２位	渋　谷　　充
	３位	森　　康　哲
女子	１位	出　納　麻理菜
	２位	佐々木　　香
	３位	塩　月　美　香

閉会のご挨拶

また次回をお楽しみに…

合同送別会・忘年会に参加して

庶務班長
立　川　秀　一

平成29年12月20日の水曜日、レンブラントホテル大分で合同送別会・忘年会が開催されました。

今年の忘年会は、去年と違う点が幾つかありました。会場が長年お世話になってきたトキハ会館ではないという事や、１月の異動者の送別会も併せて開催した点などです。

19時開始で21時終了予定ですから、２時間以内に送別会と忘年会の余興８本、抽選会を収めなければなりません。時間内に収めるためには、プログラム通りのスムーズな進行が欠かせません。

19時になり、送別会が始まりました。異動者は姉川事務部長、田辺経営企画室長、甲斐先生の３名です。３名の異動者の方々よりご挨拶をいただき、記念品を贈呈して送別会は無事終了しました。これから先が忘年会になるのですが、冒頭では院長に大分医療センターの今年１年を振り返っていただきました。スライドを使っての今年１年の振り返りは、とてもわかりやすく、今年の主な出来事を思い出させてもらえました。

会が始まって30分が過ぎた頃、いよいよ余興が始まりました。いざ始まってみると、これがまたハプニングの連続で、次に出る予定の人達が集まっていないとか、用意してきた映像が出ない等々いろんな事が起こりました。せっかくの作品が日の目を見ずに終わるのではと心配しましたが、会場のスタッフや準備してきた職場の方々の奮闘により何とか日の目を見ることが出来ました。肝心の内容なのですが、各職場で作られた映像はとても完成度が高く作品の趣がありました。また、映像だけでなくステージのパフォーマンスも素晴らしいものでした。出し物は、流行を反映してブルゾンちえみのネタが多かったのですが、どのブルゾンさんもクオリティが高く笑わせていただきました。

院長挨拶

抽選会も終わり、景品が当選者に贈呈されて忘年会もお開きとなりました。

終わってみれば、心配された時間も何とか30分程度の遅れで済みました。これも、ホテルのスタッフの方や出席していただいた職員の皆様のお陰です。本当にありがとうございました。

乾杯（奈須副院長）

余興風景

大分医療センターのロゴマークについて

全体のコンセプト

Oita National Hospital（旧国立大分病院）の頭文字をロゴマークの形であらわしており、さらに「O」は病院の所在地である「大分市」及び「大在」の地名を示している。

これを、海・空・太陽・緑の大地を立体的に示す色合いで表現したものである。

「緑と赤」…昇る朝日と緑豊かな大分の地を表す。
「青」……大分医療センターのシンボルカラーを示し、私達医療従事者を表す。
「黒」……地域と大分医療センターを結ぶ架け橋を表す。

編集後記

今年の２月に開催となる平昌冬季オリンピック。フィギュアスケート、スキージャンプ、スノーボードなど多くの選手たちがメダル獲得を期待される中、心配なのは羽生結弦選手。世界中の多くの人たちが彼のスケーティングに魅了され、オリンピック連覇を待ち望んでいるのではないでしょうか。残り１ヶ月、羽生選手のけがの回復を心から願っています。

私たちも新年を迎え、また新たな気持ちで多くの皆さんに手に取って読んでもらえる魅力ある広報誌づくりに励んでいきたいと思います。これからの広報誌に期待して下さい。

編集委員一同

編集委員

委員長
奈須　伸吉（副院長）

委　員
國分　克典（事務部長）
高祖　英典（副医局長）
竹之内須賀子（副看護部長）
山本真由美（教育担当師長）
高瀬　由香（2階病棟副看護師長）
三宅　修二（管理課長）
長下　和裕（経営企画室長）
生野　充章（業務班長）
鶴崎　裕介（専門職）
米丸　淳一（給与係長）
岡江　晃児（医療社会事業専門職）